

第1回自然再生検討会及び各部会における検討状況

1. 第1回大台ヶ原自然再生検討会における検討状況

項目	意見・指摘事項	検討・対応内容	備考
森林が衰退した原因と現状について	<ul style="list-style-type: none"> これまでのデータをもとに解っていることを整理するとともに、それを踏まえて今後何を調査するべきかを明らかにすべき。 フロー図について、影響を示す矢印は、その方向や、確実なものや推定によるものを区別して示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部会において検討 関係は明確でないため、考えられる現状とそれに対応する資料を整理 	参考資料1-1
自然再生の必要性について	<ul style="list-style-type: none"> 大台ヶ原での森林の衰退は、林冠構成木の枯損だけでなく、むしろ下層植生や腐植層の衰退が問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「検討の主要課題」等に反映 	資料 2
自然再生の目標について	<ul style="list-style-type: none"> 過去の特定の時点でのすがたを目標に定める方が具体的にイメージしやすいが、気候条件等のポテンシャルが異なっていることから、現在の条件の下で可能な姿を目標にせざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「検討の主要課題」等に反映 	資料 2
自然再生事業の展開方向について	<ul style="list-style-type: none"> 自然再生事業を実施することが、自然と人との共生のあり方の模索につながるように考えるべき。 事業としては着実にステップを重ねるが、その完成は長年月を要することを前提に考えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 「検討の主要課題」等に反映 	資料 2

2. 森林再生手法検討部会における検討状況

項目	意見・指摘事項	検討・対応内容	備考
調査の方法・内容について	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生に着目した調査や、防鹿柵の内外での生物群集の相違を明らかにする調査を実施すべき。 具体的手法検討に当たっては、事業を実際に実施する地域のより詳細な図面が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林再生の具体的目標や手法を検討するための基礎となる地域区分を、主として高木層に着目した植生現況区分と、さらに下層植生に着目して細分した植生現況詳細図を作成した。 この結果、大台ヶ原地域を①トウヒ群落②ブナーウラジロモミ群落③ブナーウラジロモミ代償群落④トチノキーサワグルミ群落⑤コウヤマキ群落等に区分した。 現在の大台ヶ原における問題点として、トウヒ群落の分布域の減少、群落構造の衰退、後継樹の消失、シカ忌避植物の増加などを明らかにした。 (論点) 具体的手法を検討するための、目標設定の考え方と内容。 	<p>参考資料2-1 ~2-6</p> <p>参考資料2-7 ~2-14</p>

3. 野生動物部会における検討状況

項目	意見・指摘事項	検討・対応内容	備考
調査の目標について	<ul style="list-style-type: none"> 下層植生の衰退と後継樹の消失により更新が困難な状況にある大台ヶ原の森林生態系が、自然再生によって、その機能・構造が修復することで回復するであろう動物群集を予測することを当面の目標とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存調査・研究の把握に努め、整理を行った。 現況植生タイプごとの動物群集の相違を把握することを目的とする調査及び、動物群集の変化を時間軸の中で捉えることを目的とする調査を計画した。 	<p>参考資料3-1 ~3-3</p>
調査の方法・内容について	<ul style="list-style-type: none"> 動物は植生と密接に関係することから、統一の調査方法を作成し、調査地点等と合わせ相互に調整しつつ実施することが必要。 動物と植物の相互作用の観点から、森林再生手法を検討する際に配慮すべき点を提起すべき。 利用による影響に着目した調査も検討すべき。 調査自体が自然環境に悪影響を与えることのないよう注意が必要。 		

4. 利用対策部会における検討状況

項目	意見・指摘事項	検討・対応内容	備考
大台ヶ原の自然再生について	<ul style="list-style-type: none"> ・入山規制のような物理的対策だけでなく、レベルの高い自然保護と自然体験を目指すべき。 ・幅広い協力関係・連携を模索すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用実態調査結果から、利用に関する課題を把握した。 ・利用の目標像を設定した。 ・質の改善と量の適正化の観点から、利用対策の方向性を検討した。 	参考資料4-1 ~4-3
大台ヶ原の利用特性について	<ul style="list-style-type: none"> ・「登山の山」から「観光の山」に変化してきた大台ヶ原の目標となる「第三の山」の定義を、暫定的に「新しいワイズユースの山」とする。 ・利用者の定義には自然再生の参加者も含まれ、大台ヶ原を環境学習や自然との良い関わりをつくるトレーニングの場としてのあり方も考えるべき。 		
合意形成手法の検討について	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントの新しい手法であるPDCA (plan do check action)をもとにして環境ガバナンスを進めていくべき。 ・具体的な形で残るような合意形成を目指し、例えばシンポジウム、調査、ワークショップ等を実施した上で、改善のスパイラルを上げていくべき。 ・自然科学的な意味だけでなく、人間の心理にも着目した大台ヶ原のイメージ像を作ることや、広域的な観点からの取り組みも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査、パブリックコメント、シンポジウムの他、具体的なテーマを設けた関係者参加によるワークショップ等を、早い段階から実施する方向とした。 	参考資料4-4

各部会の開催状況

検討会・部会名称	回数	開催日	議 題
大台ヶ原自然再生検討会	第1回	平成14年11月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然再生について 2. 大台ヶ原の現状と植生保全対策について 3. 自然再生推進計画調査について
森林再生手法検討部会	第1回	平成14年12月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大台ヶ原の自然再生について 2. 大台ヶ原の植生保全対策等の経緯について 3. 森林再生手法検討調査について
	第2回	平成15年3月3日	森林再生手法検討調査について (1)大台ヶ原の森林植生の現況について (2)地域区分の基本的な考え方について
野生動物部会	第1回	平成14年12月27日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大台ヶ原の自然再生について 2. これまでの野生動物調査について 3. 調査のすすめ方について
	第2回	平成15年3月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調査の目標と概要 2. 各動物分類群ごとの調査内容及び方法について
利用対策部会	第1回	平成14年12月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大台ヶ原の自然再生について 2. 大台ヶ原の利用状況について 3. 大台ヶ原の利用に関する課題について 4. 合意形成手法の検討について
	第2回	平成15年3月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大台ヶ原の利用についての基本的な考え方について 2. 大台ヶ原における自然再生に向けた合意形成手法の検討について

平成14年度 大台ヶ原自然再生検討会

○委員

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|--------------|
| ・小野勇一 | 北九州市立自然史・歴史博物館館長 | ・小船武司 | 日本野鳥の会奈良支部長 |
| ・菅沼孝之 | 元奈良女子大学教授 | ・田垣内進一 | 神習教大台ヶ原大教会教長 |
| ・武田明正 | 三重大学教授 | ・長嶋俊介 | 奈良女子大学教授 |
| ・宮前洋一 | NPO法人森林再生支援センター理事 | ・村上興正 | 元京都大学講師 |
| ・鷺谷いづみ | 東京大学教授 | | |

○関係機関

- ・林野庁近畿中国森林管理局
- ・奈良県農林部森林保全課
- ・三重県環境部人と自然の環境共生チーム

森林再生手法検討部会

○委員

- ・木佐貫博光 三重大学助教授
- ・菅沼孝之 元奈良女子大学教授
- ・高田研一 高田森林緑地研究所所長
- ・野間直彦 滋賀県立大学講師
- ・日野輝明 森林総研関西支所チーム長
- ・横田岳人 奈良女子大学助手

○関係機関

- ・上北山村森林組合
- ・三重森林管理署
- ・奈良県農林部森林保全課

利用対策部会

○委員

- ・田垣内進一 神習教大台ヶ原大教会教長
- ・田村義彦 大台ヶ原・大峰の自然を守る会会長
- ・長嶋俊介 奈良女子大学教授
- ・西田正憲 奈良県立大学教授
- ・横村久子 京都女子大学教授
- ・宮前洋一 NPO法人森林再生支援センター理事

○関係機関

- ・上北山村商工会
- ・上北山村商工会青年部
- ・吉野熊野観光開発㈱
- ・奈良交通㈱
- ・奈良県：森林保全課、道路維持課、文化観光課
- ・三重県：農林水産商工部 まちの活力づくり支援チーム
- 環境部 人と自然の環境共生チーム
- ・上北山村
- ・川上村
- ・宮川村

野生動物部会

○委員

- ・井上龍一 奈良教育大学付属小学校教諭
- ・大井徹 森林総研関西支所グループ長
- ・小船武司 日本野鳥の会奈良支部長
- ・日比伸子 橿原市昆虫館学芸員
- ・前田喜四雄 奈良教育大学教授
- ・村上興正 元京都大学講師

○関係機関

- ・三重森林管理署
- ・上北山村

二ホンジカ保護管理検討会